

# ふるさとの昔話

曾我兄弟にまつわる話

## 虎御前の腰掛石



話してくれた人

いしかわきじゅう  
石川喜十さん  
(72歳)  
片宿

鷹岡地区には曾我兄弟にまつわる史跡がいくつかありますが、虎御前の腰掛石もその一つです。腰痛が治るといふ言い伝えから、昔はお参りをする人も多かったのですが……。



ほれ この石がそうなんだよ

### いつとはなしに里の人々が

鎌倉時代、將軍頼朝の富士の巻狩の陣中で起った、曾我五郎十郎の仇討(今から790年前・建久4年)にまつわる史跡は、この辺りにいくつかあるが、虎御前の腰掛石というのは、ほれ、この石なんだよ。

知ってもいようが、虎御前というのは、兄十郎<sup>すけなり</sup>祐成の愛人で、それは情の深い美しい人だったそうだな。

その虎御前が、二人の安否を気づかって、居ても立ってもいられず、大磯<sup>おおいそ</sup>を旅立って、たずねたずねて、ようやくここまで来たそうじゃ。

そして、いとしい人はもうこの世にいないと聞いて、はりつめた心が一度にやぶれ、流れる涙をふきもせず、くずれるように腰をおろしたという……。

いつとはなしに、里の人々が、この石を供養するようになった。ほれ、この小川の水で石を洗ってやるとナ腰痛が治るといふことで、昔はお参りする人も多かったが、今はめっきり減って、社会科見学の小学生や、時おり調査の学生が来るくらいになってしまったなあ……。

### 地名の由来

もと よし わら  
元 吉 原



現在の元吉原

元吉原村は昭和30年吉原市と合併して今はありませんが、明治22年3月鈴川村・今井村・大野新田・松新田・田中新田・沼田新田・三柏原新田が合併してできた村です。吉原宿がもと鈴川・今井にあったことから、元の吉原という意味で村名にしました。吉原という名は江戸の吉原とは無関係で、奈良時代にはこの付近はよし原とよばれていました。

### 郷土の遺跡

### 出土品紹介

今回から、市内の遺跡からの出土品とその当時の人々の生活についてシリーズで紹介します。

#### 天間沢の人々 その①



縄文時代の人々は、川の魚を取り、山野のけものを狩り、木の実を拾い、芋を掘って生活していました。長い間、同じ場所で生活していると、これらの食料が少なくなってしまうため、数年から十数年を周期に、食料を求めて集落を移動していました。

市内には、縄文時代の代表的な遺跡として、鷹岡の天間沢遺跡があります。

7回にわたる発掘調査から、縄文時代中期(4,500年前)ころの住居址や墓地といわれる配石構、また、土器や石斧などが数多く出土しています。このようなことから、この天間沢には、縄文時代の人々が長く生活していたことをうかがい知ることができます。しかし、その間でも生活に必要な自然が失われるとここを出てゆき、またここに自然が豊になると帰ってくるということを、何度もくり返していたようです。



縄文時代の複合した住居址